

障害者に関する法律等に関する次の記述のうち妥当なのはどれか。

1. 障害者基本法では、「何人も、障害者に対して、障害を理由として、差別することその他の権利利益を侵害する行為をしてはならない。」と規定されている。
2. 発達障害者支援法では、「障害者である労働者は、経済社会を構成する労働者の一員として、職業生活においてその能力を発揮する機会を与えられるものとする。」と規定されている。
3. 障害者に対する虐待については、いわゆる障害者総合支援法に規定されており、身体的虐待・心理的虐待・ネグレクト・性的虐待の四つについて禁止されている。
4. 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律で規定されている入院形態は、措置入院の1種類である。措置入院は、精神障害を持つ本人の申出に基づいて行われる。
5. 障害者手帳は、身体障害者手帳、療育手帳の2種類であり、障害は障害者自立支援法の対象となり、様々な支援策が講じられている。

言葉の発達に関する次の記述のうち妥当なのはどれか。

1. 喃語が最初に出現し、その後にクーイングが出現する。
2. 一語文の時期は一語で様々な意味を表現する。
3. 語彙爆発という現象は、三つ以上の単語を重ねた多語文を話すことをいう。
4. 第二質問期には「これ何？」などの質問をする。
5. 1歳6か月頃には、周囲の大人が幼児語で語りかけることが減り、子どもも成人語へと移行する。

長時間保育に関する次の記述のうち妥当なのはどれか。

1. 通常の保育時間を超えて提供される延長保育の時間には、乳児は幼児と共に生活し、にぎやかな雰囲気でも過ごせるとよい。
2. 保護者の就労形態等は様々であるので、長時間保育では、保護者の意向を最優先に対応することが望ましい。
3. 延長保育で非常勤保育士が乳児を担当し、保護者に伝達事項がある場合は、間違いがないようにするため、非常勤保育士からは伝えず、翌日、担任保育士から伝えるようにする。
4. 障害のある子どもの延長保育を行う際には、関係機関等と連携及び協力を図りつつ、個別の支援を行うように努める。
5. 延長保育を担当する保育士は、子どもたちが楽しめるよう、通常保育の状況は引き継がず、新たに保育を展開するとよい。